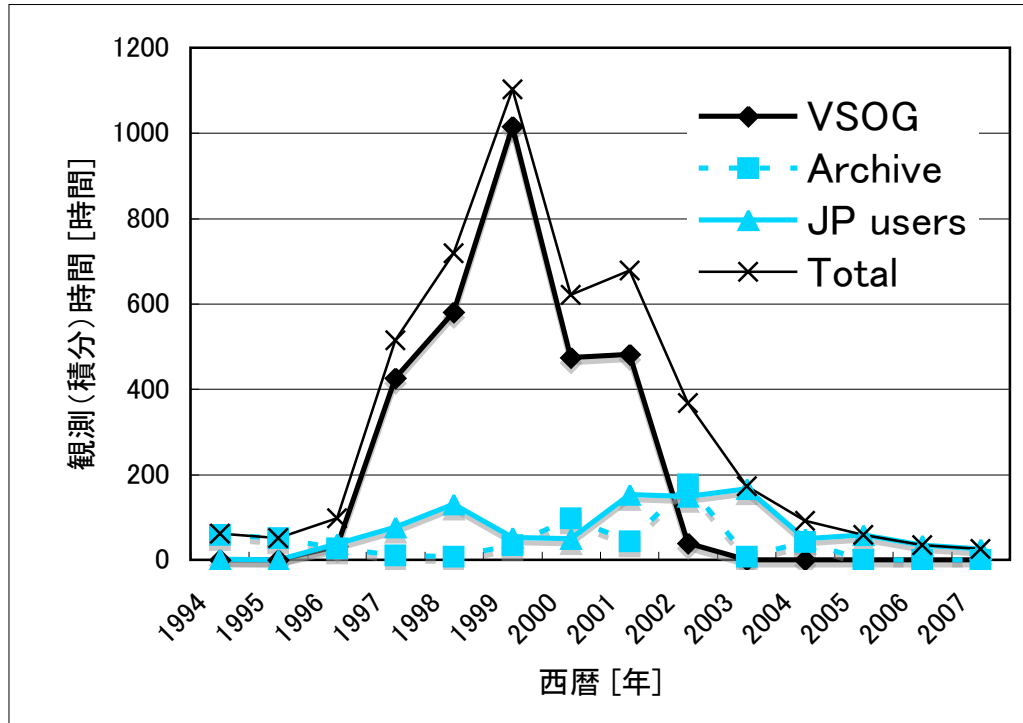


日本人研究者によるVLBA利用状況

2008年2月13日 今井 裕@VLBA問題検討

単位は時間

Observer	total	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
VSOG	3050	0	0	0	0	32	426	580	1015	474	481	39	0	0	0	0	0
Archive	563	0	0	59	51	27	11	8	35	98	43	177	7	42	0	0	0
JP Users	983	0	0	2	0	37	76	130	52	49	153	149	166	49	58	34	25
All	4598	0	0	62	51	97	514	719	1103	621	678	367	173	91	58	34	25



VSOG(VSOP)観測は、1997年から2001年にかけて全体の7割以上を占める。観測総時間は1000時間／年に達し、2007年現在のVERA共同利用観測時間の4倍である。日本人ユーザーによるVLBA利用は、NGC4258巨大ブラックホール発見(1995年)頃から盛んになり、160時間／年に達する。当時の国内VLBI観測網(J-Net)観測時間よりも圧倒的に多い。VERAの完成と定常観測開始(2004年)頃から、ユーザーの多くがVERAに流れた模様。アーカイブデータの利用も1つの特徴で、2000—2002年については日本人ユーザーによる観測時間に匹敵している。世界にオープンされている観測時間という観点で言うと、VLBA観測時間がVERA共同利用観測に匹敵するくらい日本人ユーザーへ提供された時期があり、またそういう時期が今後来ないとはまだ言えない。さらに、ひとたびVSOP-2観測が始まると、VLBAの需要が1000時間／年に達するだろう。これは、VLBA総運用時間のおよそ25%に相当する。EAVNがVLBAの肩代わりに観測できれば、この割合を減らせるかもしれない。VSOP-2 pre-launch surveyに必要な時間の見積もりは別途必要。